

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第86期(2016年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2016年度上期につきましては、グローバルの自動車連結販売台数が上期として過去最高の51.2万台となり、初めて半期で50万台を超える販売台数を記録することができました。好調な販売により諸経費等の増加を吸収いたしました。為替変動の影響により、上期の連結業績は、売上高1兆5,777億円、営業利益2,085億円、経常利益2,278億円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,638億円となりました。

また、2016年度通期計画につきましては、連結販売台数106.2万台と100万台を超える過去最高の見通しであります。今後も為替変動の影響などが見込まれるため、売上高3兆1,800億円、営業利益3,730億円、経常利益3,970億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,780億円となる見通しであります。

このような状況の中、株主のみなさまへの中間配当につきましては、2016年度上期の業績、通期業績予想に鑑みまして、1株当たりの配当を72円といたしました。また、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく72円といたします。これによりまして、1株当たりの年間配当金は、昨年度実績と同様の144円となる予定でございます。

さて、当社グループは中期経営ビジョン「際立とう2020」において、2020年のありたい姿を「大きくはないが強い特徴を持ち 質の高い企業」と定め、その実現に向けて「スバルブランドを磨く」と「強い事業構造を創る」ことに取り組んでおります。

そのような中で、当社の2016年度のグローバル連結販売台数は、引き続き好調な米国販売が牽引し、5年連続で過去最高記録を更新する見通しであります。一方、できる限り早く、一人でも多くのお客様に車をお届けするため、米国生産拠点でありますスバル オブ インディアナ オートモーティブ インク(以下、SIA)において、継続して能力増強投資を行っており、標準操業

における生産能力を、2016年3月末の21.8万台から2016年末には39.4万台へ引き上げることを計画しております。

本年は、SIAにとって変革の年でございます。5月末にこれまで受託生産をしておりましたトヨタ車「カムリ」の生産を終了し、1か月に製造ラインを改修して、7月からはアウトバックの生産を開始いたしました。これに加え、11月には新たに北米向け新型インプレッサの生産を開始いたしました。1989年9月に稼働を開始したSIAは、直近ではレガシィ、アウトバックの2車種を生産しておりましたが、今回の新型インプレッサの追加により、3車種の生産工場となりました。さらには、2018年には多人数SUVの生産を追加する予定でございます。

また、これらの生産能力の増強に加え商品につきましては、本年10月に、当社が中期経営ビジョン「際立とう2020」における次世代モデルの第1弾として位置づける戦略車、新型インプレッサを日本市場にて発売いたしました。お客様に最高の「安心と愉しさ」を提供することを目指し、次世代プラットフォーム「SUBARU GLOBAL PLATFORM」をはじめとした様々な新技術を投入して、「総合安全性能」と「動的質感・静的質感」の大幅向上を実現いたしました。

当社といたしましては、こうした中期経営ビジョン「際立とう2020」に基づいた取り組みにより、中長期的な企業価値の向上と、持続的成長・発展を目指しております。今までの健全なビジネスモデルを大事にしつつ、未来を切り拓くために電動化や

環境対応の技術開発にも注力し、より魅力的な「SUBARU」を築き上げて参ります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

代表取締役社長



吉永 尚之